

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年 8月 22日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	FUBIS Berlin "Art in Germany"	派遣先大学:	ユトレヒト大学による共同運営(ベルリン自由大学)
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

ベルリン自由大学は西ベルリン最大の大学で、様々な分野のサマープログラムを実施しており、明るい雰囲気のある素敵な大学です。

参加した動機

以前住んでいたことのあるドイツでのプログラムに参加したかったこと、自分の興味分野である芸術や建築に関するプログラムがちょうどあったこと、開催時期が東大の授業日程に照らしてもとても好都合だったことなど。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

指定された書類をきちんと提出しておけば、その他必要事項は全てリストアップされたものをベルリン自由大学側が提供してくれます。指示に漏れ無く従えば問題はないと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ドイツに短期で滞在する際に日本人はビザは必要ありません。パスポートと学生証、(できれば国際学生証も)さえあれば渡航自体は確実です。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

東大を通して加入している普段の学生保険に旅行保険分の代金を追加で支払い、その保険証明は常時持参していました。常備薬は特にありませんがちょっとした風邪や病気に使えそうな薬などは少しだけ持ってゆきました。予防接種等は日本で普段する以上のものは特に何も追加していません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

上記の通り、東大の学生保険に旅行保険分の料金を追加支払いしただけです。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

単位認定は特に申請していません。短期留学であっても海外渡航届けを提出することが望ましいかなとは思いますが。

## ⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

プログラムで使われていた英語に関してはIELTSの結果を東大にもベルリン自由大学にも提出してありましたし、授業中も問題を感じることはありませんでした。滞在中の現地でのドイツ語に関しても、幼少時に住んでいた際に身に付けた言葉のため、日常生活などで特に困ることはありませんでした。

## ⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

コンセントの変換ができる先端のプラグ、日本からのお土産以外は基本的に何を忘れても容易に購入できると思います。ただ、夏でも気温がかなり低い時間帯があるので、上着はたくさん持参するにこしたことはありません。それから私はベルリンに住んでいたことがあってもやはり短期で集中的に街を楽しむためにと思い、渡航前に日本でガイドブックを数冊購入し隅から隅までかなり読み込んでいきました。また、地図と路線図はだいたい頭に入れておいて、かつ現地では常に持ち歩き、どこをどう移動するべきかや自分がどこにいるかなどが感覚的につかめるようにしておきました。

## 学習・研究について

### ①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

私のクラスはドイツ芸術史のクラスで、午前中は毎日講義があり、先生がスライドで様々な作品や引用などを見せながら説明して下さることで芸術史を学び、また先生が学生たちにたくさん意見を求めて下さるのでディスカッションスタイルでも芸術鑑賞を学びました。お昼を皆で食べてから毎日決まった美術館に大学から全員で公共交通機関を使って移動します。到着したらそこで先生と共に入館して、館内で先生が作品実物の前でたくさん説明をしてくださったり私達が意見を述べたり、または全員がその場で一つ作品を選んで即興でその作品に関するショートプレゼンテーションをしたりしました。最終日は午前も午後も大学内に留まって、ドイツ芸術に関する自由テーマで一人一人がプレゼンテーションを行いました。リーディングマテリアルは配布されましたが、それに添ってみっちり進めるという形ではなかった上、細かな知識の予習復習よりも自分でも積極的に授業で行けない分まで美術館や街の各所を訪ねて見るべき作品や建造物を自分の体で経験して行くことが推奨されていました。それは現地でしかできないことなので、素晴らしいスタイルだと思います。

### ②学習・研究面でのアドバイス

とにかく自分から興味をもって臨むことが大切だと思います。気になる芸術家や時代、作品に出会う度にそこから世界を広げてゆけるのは自分だけですし、積極的に調べ、自分の足で歩き、先生や学芸員さん方など、身近な方々に師事を求めて経験を豊かにしてゆけば自然に多くを学べると思います。まずはその地でしかできないことに時間をさききって、広く広く学び取ってから、自分でじっくり時間を取れるときに範囲を少し狭めて深めてゆきたいという考えで私は臨んでいます。

### ③語学面での苦労・アドバイス等

やはり授業も美術館もその前後の生活も語学が壁になってしまっただけでは楽しめることが半分以下になってしまうかもしれません。まずは授業で使われる言葉、その地で話されている言葉は必死で学習して、語学が障壁にならないように身に付けてしまえるといいと思います。また、授業内容に関わりそうな専門用語も事前に極力チェックしておくだけでなく、知らない言葉に出会ったらいつでも恥ずかしながら周りの人や先生に聞くことも大切だと思います。私自身は、新しい知識や語彙に出会う度に、それを学びの機会とむしろ嬉しく感じて、聞き続けていました。

## 生活について

### ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

学生寮込みの支払いしかオプションがなかったため、学生寮代は支払いましたが、学生寮はかなり評判が悪く、立地も大学からとても遠いのと衛生面や治安、対応など様々な問題点を耳にしていたため、私は小学校時代の友人宅にずっと泊まっていました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

基本的に夜などはとても寒かったです。10度を下回っていたことも稀でなかったと思います。大学のキャンパスはいくつかあるのですが、サマープログラムの会場だったキャンパスの周りはかなり郊外です。でも一旦バスと電車を乗り継いで街に出てしまえばそこからは首都の交通網が支えてくれます。交通機関は滞在期間によって買うべきチケットが異なってきますが、交通費は良心的な範囲だと思います。食事は学食が比較的良かったためお昼は必ずそこでクラスメイトと食べ、朝は街中にたくさんあるパン屋さんのどこかでパンを買って食べ、夜は(ベルリンはインビスが充実しているので)インビスなどで何か買って帰ったり、友人とレストランで食べたりしました。お金は、クレジットカードを使えるお店に限られているのと、カードを使った犯罪についてもよく耳にするので基本現金でした。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は悪くありませんが、日本ほど良くもないので常に警戒して過ごしていました。かばんの持ち方や(ひったくられにくいように、また、お財布を入れているポケットのある側を内側に、など)お金を色々な物に分けて入れて持ち歩くことや、服装、周りの人の様子など常に全てに目と耳を向けて警戒することは必須です。あと、いつでも硬いものを手に持っておくといいと思います。これは現地の友人たちも女子ならばしばしばしています。医療機関は当たり外れがあります。健康管理は食べるものの衛生や狭い場所で過ごす際の周りの人達などから注意できることは山ほどあるので極力考慮できる点は網羅すべく気をつけていました。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費と授業料の一部はgefllの奨学金でまかなえましたが、その残りとその他の本代、食費、交通費、その他出費などなどは全て自分で出しています。アルバイトで貯めたお金です。日本でドイツ語の本を買うと値段が跳ね上がっているの、私はいつも現地で本などをかなりたくさん購入してしまうため、必要最低限よりはかなり多くのお金がかかっていると思いますが、イギリスなどと比べれば優しい物価(食費も)です。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大のGEFll Programの学生としていただいている奨学金が16万円です。それ以外の受給はありません。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

授業で訪れた以外にもたくさん美術館や建築物をめぐるしました。また、野外会場でのコンサートにも行きました。週末は友人とベルリン観光をしたり、あとは授業がなかった日には以前大学生として住んでいたことのあるヴァイマルという町を再訪して多くの友人と再会し、偶然重なっていた私の誕生日を祝ってもらいました。他にも昔からの友人たちとハンブルクという街に旅行して現地に住んでいる友人と合流して日々を過ごしたり、基本的に各地でたくさんの友人と過ごしながら文化的な体験を積めたと思います。それから、動物保護施設も友人と訪問して職員の方に直接たくさん質問させていただき、とても学ぶこと、考えることの多い、良い経験となりました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

私は初日の手続きでしか入らなかったの、詳しくはわかりませんが、事務所に行けば大抵のことは対応してくださるのではないかと思います。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

おしゃれな図書館や良心的な学食、wifiが整っています。設備に関しては特に困難を感じることはありませんでした。

## プログラムを振り返って

### ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

世界中から集まった、興味・専門分野・趣味を共有する仲間たちと出会えてとても嬉しかったです。もともと知っている作品などでも、ないしは、もともと知っていた物ほど、彼らからの新しい視点を得ることで観方も変わりますし、とにかく様々な価値観を持った様々な人達と過ごした日々は私にとって貴重な栄養となりました。また私の場合は、大人になってからベルリンを再訪したことで街自体への感じ方も変わったし、15年来の友人たちが今でも存在すること、温かく迎えてくれることなどに本当に感謝してすごしていました。地図を片手に歩きまわりながら街を体験しつつ、授業で多くを学び取るというサマープログラムのスタイルはとても素敵だと思います。

### ②参加後の予定

またベルリンを訪れる機会があることを心から楽しみにしています。まず今回のプログラムで学んだことはきちんと消化して、私にできる方法を模索しながら今後の学習に確実に活かしてゆきたいです。また、このプログラムで知り合った友人たちとも引き続き交流のたえないように連絡を取り合えればと思います。

### ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

雰囲気の良い、楽しさと学びの詰まった素晴らしいプログラムでした。また、ベルリンという街はヨーロッパの中でもとりわけ多くの現代史的事項が刻まれ、跡が残っている街だけでなく、古代からの様々な美術品なども収集されていたりと、時空間を超えて興味深いものにあふれています。その独特な空気に浸ってみる経験はとても貴重だと思います!!

## その他

### ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

数種類のガイドブックと、美術に関する文献、訪問したかった文化施設等の公式ウェブサイト等、その場その場で様々なメディア、マテリアルを使って調べや準備に臨みました。

### ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016年8月29日

東京大学での所属学部・研究科等:	工学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	English for Academic Purposes	派遣先大学:	ユトレヒト大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界: )		6. 起業
	7. その他( )		

派遣先大学の概要

アムステルダムから電車で20分ほど離れたところにある大学です。ユトレヒト自体が学生の街になっており、大学の教育機関が街のあちこちにあります。また、ユトレヒト大学はヨーロッパ内でもよい大学として知られています。オランダはイギリスの次に英語が通じる国としても知られており、世界各国から様々な学生が集まっています。

参加した動機

海外での留学経験がなかったからです。またヨーロッパ自体も行ったことがなく、オランダは英語がよく通じると聞いたからです。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

早めに準備をすると余裕を持てます。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザを取る必要性はありません。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

特にありません。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学校の方が義務付けている海外保険です。

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

所属学科に単位換算申請を行い、承認していただきました。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
語学レベルはIELTS6.5でした。語学学習は特にしてませんでした。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
日常会話の表現を身につけて行った方がいいと思います。
<b>学習・研究について</b>
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
先生を囲んでの生徒対話型の授業です。宿題は毎日です。
②学習・研究面でのアドバイス
参加学生の英語レベルが高いので、頑張ってください。
③語学面での苦勞・アドバイス等
日常会話で使われている英語に関する知識が乏しく、うまく会話できなかった。授業だけではなく、友達との出会いも大切なので、ブロークンな英語を軽視してはいけなかったと思います。
<b>生活について</b>
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
ルームシェアです。教室まで歩いていけます。住む場所はランダムなので現地に着くまでわかりません。ですが、同じコースの人たちと同じ寮になる場合がほとんどです。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
クレジットカードはどこでも使えます。気候は夏でも肌寒く羽織るものが必要です。天気も変わりやすいので気をつけた方がいいです。徒歩でどこでもいけます。食事はスーパーマーケット、レストランが充実しているので、困りません。寮にはキッチンがついているので、みんなで料理するのも楽しいと思います。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
必要な薬はもっていくようにしました。
④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
授業料は寮の部屋代も込みで850ユーロ。それに娯楽、自炊の費用は1万ぐらいでした。パンがとても安いです。他のものも安い印象です。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

卒業生有志の短期留学支援プログラム「東大生海外体験プロジェクト」による奨学金をいただきました。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

寮でお酒を飲みながらダンスしました。また、ソーシャルアクティビティも充実しており、カヌーをやりました。楽しかったです。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

とても親切に対応してくれました。自分は到着の時、荷物の到着が遅くなり、スタッフの人が代わりに対応してくれました。電話での英語での会話が苦手な自分にとってはとても助かりました。また、到着した時はメールで知らせてくれるなど、とても配慮が行き届いており、とても満足です。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

コピーができます。また、町中にWi-Fiがあります。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

今回の渡航はとても有意義なものでした。このプログラムで学んだ内容だけではなく、自分が身を置いた環境もとても刺激的でした。学生はスペイン、ドイツ、オーストリア、イタリア、イラク、中国、台湾、ロシアなど色々な国から来ており、行動をともにしながら、文化の違い、価値観の違いを感じました。具体的に言葉で言い表すのが難しいのですが、自分にとってはいい経験になったと思います。また、オランダ国民と日本国民の違いも感じました。オランダは日本よりも個人主義の国であり、経済の成長よりもいかに自分たちの人生を豊かにするかに重きを置いており、仕事を掛け持ちして、趣味や家族に時間を割くのがスタンダードでした。これはオランダ人の友達に聞いたことでもあり、自分で実際に目にして感じたことでもあります。また、周りの人たちの英語のレベルも非常に高く、自分もさらに英語のレベルを上げなくてはならないと強く感じました。

②参加後の予定

プログラム内で、とても有効な英語の勉強方法や、有用なツールを教えてもらったので、これを活用して、日本に帰ってからも弛まず英語の力を磨いていきたいと思います。自分は現在、海外の、特にアメリカの大学院に進んで勉強をしていく選択肢を考えているのですが、それに向けてのモチベーションの向上にもつながりました。この渡航は自分の今後の進路においてよい影響を与えるものであったことを嬉しく思っております。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

色々な国の人が集まっていて、ほんとうに刺激的です。このようなコメントはありきたりだと思うのですが、本当にそう思います。今の時代、ネットで色々なことが知れますが、このような経験は現地に行かなくては体験できません。留学をしたことのない人に特におすすめです。

**その他**

**①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物**

特にありません。

**②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。**



東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

2016 年 9月 4日

東京大学での所属学部・研究科等:	理学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	Utrecht Summer School , Nanomaterial	派遣先大学:	Utrecht University, the Netherland
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界: )	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他( )		

派遣先大学の概要

ユトレヒト大学。オランダ国内ではライデン大学に次いで二番目に歴史の古い大学。物性研に相当する組織(Deby Institute of Nanomaterial)を持ち、国際的にも高い評価を受けている。

参加した動機

1:海外の大学での学びを体験したかったから。学問のための長期留学となると経験がなく、実際に海外の大学に身を置くことで、英語能力や学問能力など、どのような能力が必要なのか見極めたかった。  
2:ただの語学学習ではなく、短期とはいえ、学問的な内容と、ほかの国の人との学問的な交流のある留学をしたいと思った。異なる背景を持った人達がどのような考え方や論理をもって学問に向かうのかをみて刺激を受けたいと思った。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東大のプログラムは学内手続きに必要な書類が多いのでチェックリストを活用する必要がある。また応募は直接web上でを行い、成績表とCV、motivation letterが必要なため、事前に準備しておくこと。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザは基本的に不要(二、三週間程度滞在する場合)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

基本的に東大配布の資料に従って準備。特に追加の予防接種等は必要ない。薬は頭痛薬、胃腸薬などごく普通のものを持参

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学 (プログラム参加にあたり必須だった)

⑤プログラム参加にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
授業期間と被らなかったので履修がらみの手続きはなし。単位認定は実際に授業でとったノートやスライドを見てから学科の教務課が決めるとのこと(認定されるかは執筆時点ではまだ不明)。
⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)
TOEFL100. ただしオランダ訛りやドイツ訛り、イギリス英語など、現地での聞き取りにはかなり苦労した。学術用語の英単語を暗記。
⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
PCは必須。
<b>学習・研究について</b>
①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
構成は講義+工場見学(触媒工場)+最終プレゼンテーション。講義はごく基本的な統計力学、化学の復習にはじまり、ナノ粒子の有用性や応用などに進んでいく。ナノ粒子に絡む各分野(電気工学、医療応用、触媒反応)の概略を知ることができ面白い。予習は不要だが、かなり駆け足、かつ“紹介的”な授業であるため、各応用や技術の背後にある理論をきちんと理解したいと思ったらかなりの量の復習が必要。最終プレゼンテーションはALESSそのもので、テーマはナノマテリアルに関していけば自由。
②学習・研究面でのアドバイス
内容自体はさほど難しいものではない。ただ化学の知識をある程度持っておくとさらに楽だろう。
③語学面での苦労・アドバイス等
ともかく各国独特の訛りがあるので、聞き取りはかなり勝手が違う。できればイギリス英語の聞き取り練習(BBC?)をやっておくといいかもしれない。
<b>生活について</b>
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
宿泊先は現地についてから知らされる。自分の場合はキャンパス近くの寮。基本的に同じコースの履修者はまとめられるようだ。ベッドルーム×8で風呂キッチン共用だった。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
気候はとても涼しい。現地の八月中旬から下旬の気候だが、日本の9月末から10月ぐらいだと思ったほうがいい。朝晩は10度台まで下がる。クレジットカード(Visa)は基本的に通用するが、当然現金しか扱わないところもある。市内中心部は古い町並みで活気がある。キャンパスはバスで10分ほど走った郊外にあった。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
ユトレヒトの治安は基本的によい。ただ中には早朝や深夜などにホームレスと思しき人間に話しかけられたり、最悪囲まれることもあるみたいなので、複数人で行動するのが良い。医療機関については、結局お世話にはならなかったのですが詳細不明。日没が午後九時ごろとかなり遅いので、生活リズムには少々注意がいる。

④要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
航空券:往復200,000JPY 授業料(寮費含む):110,000JPY 食費: 15,000JPY 交通費:35000JPY(プログラム終了後の旅行含む)
⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
東京大学短期海外留学奨学金
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)
サマースクール側がいくつかのSocial Activityを用意している(ボート、サイクリング、美術館巡りなど内容は様々)。それらの企画に参加したり、アムステルダムまで美術館を見に出かけたりなど。基本的に同じコースの数人で行動していた。
<b>派遣先大学の環境について</b>
①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
トラブル対応の電話、メールアドレスがある。また学習面に関しては、教授陣に質問すれば丁寧な答えがあり、参考文献の提示等も受けられる。逆に語学面のサポートはほぼない。Lecture base と銘打つだけあって、英語はできて当然。
②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)
図書館は解放されているが、蔵書の大半がオランダ語なので実際問題あまり活用しなかった。自習環境としては最高。食堂はいかにもオランダなメニュー(バーガー類、チーズ、魚)が並ぶ。クレジットカードで払うにはオランダ国内の口座がいるらしく、基本的に現金なので注意。Wifiは大学内、寮内ともに通っている。
<b>プログラムを振り返って</b>
①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感
インターナショナルな環境での授業、発表という貴重な経験ができたことが最大の意義であった。授業中の様子などはあまり日本と変わりがなかったが、発表準備や発表の時など、別分野・別国民の人たちと議論するのは考えの違いなどが判って面白かった。今回のプログラム参加を通して、語学力(聞き取り)や専門用語などの語彙力など、課題が明確化したのもよかったと思う。二週間という短期であったので、目に見えた実力向上、ということはないと思うが、課題と目標の明確化ができたのはとてもよかったと思う。
②参加後の予定
学士はこのまま東大で取るつもりだが、院でどこに行くかはまだ未定。博士課程に進む際に海外の研究室へ行くことを検討しようかと思っている。
③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス
将来海外進学を考えている人などは短期留学で様子を見てみるのは非常に良い経験になると思う。そこまでハードルは高くないので、積極的に機会をいかすとよいと思う。

**その他**

**①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物**

Utrecht Summer Scool のwebサイト、および受け入れ決定後にもらえるPre-departure document、地球の歩き方

**②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。**

